

シンポジウム 2 体操競技『新ルールにおける日本体操の行くえ』
 (要約 遠藤幸一)

司会者 遠藤幸一

<シンポジスト>

審判の立場から (佐藤道雄：審判委員会男子体操競技部部員)

選手の立場から (関口栄一：コナミスポーツクラブ)

コーチの立場から (森泉貴博：JOC専任コーチ)

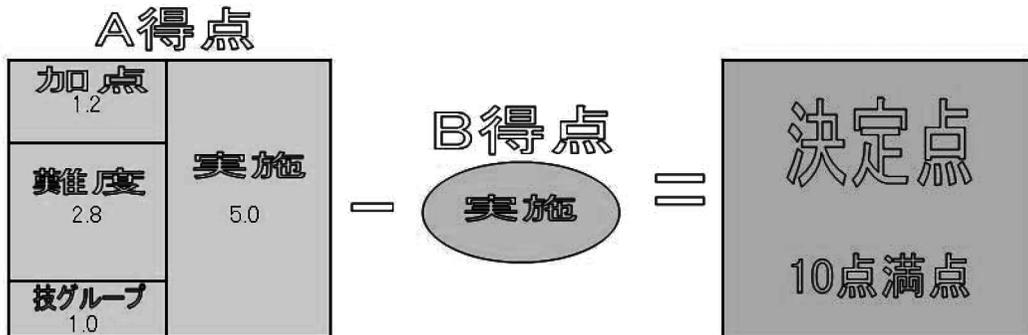
1. はじめに

新ルールとは一体どんなものなのか？ 審判・選手・コーチの立場から、現在感じている問題点や印象などを聞き、ルールのイメージをより明確にして、日本体操のゆくえを予想することをテーマに討論を進めた。

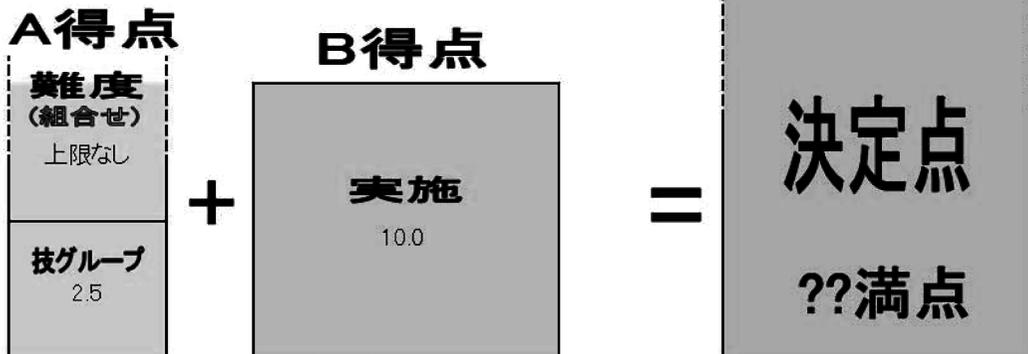
2. 新ルールの概要 (遠藤)

今後、若干の変更があると思われるが、現時点で公表されている草案をもとに新ルールの概要をみると次のように整理される。

2001年版



2006年版



・得点算出の考え方の変更

10点を上限とした演技価値点から実施減点を引いて得点を算出していた方式から、もっとも難しい技を10個（終末技は必ずカウント）選んで得点化したものに、10点から実施減点を差し引いた得点を加算する方式に変更された。

- ・10点満点廃止
- ・実施減点尺度の変更

中 欠 点	0 20	0 30
大 欠 点	0 30	0 50
落 下	0 50	0 80
しりもち	0 50	0 80

落下はD難度2つに相当する。

3. 新ルールに対する印象

審判の立場から見る新ルール（佐藤）

AB分業審判制が引き続き採用されることから、両者について新ルールのメリットとデメリットを考えてみたい。

まずA審判としては、すべての演技が終了してからカウントされる9つの技と終末技を選び、それぞれの難度点と技のグループ点を加算しなければならないので、算出に時間がかかることがデメリットとして挙げられると思う。いずれにしても何を演技したのか記述することが不可欠になるので、やはりしっかり技を見極められる専門家にならないとできない（つまり、やはり一般からは少し離れたルールであることはデメリットではないか。）

しかし、今まではD難度以外加点がなく、要求難度を満たせば意味のなかったC難度などの技が姿を消してしまっていたが、新ルールではその部分も難度点アップに影響を与えるので復活するのではないかと期待があるし、それがメリットと考えている。

一方、B審判としては、小・中・大・落下の減点尺度が0.10, 0.30, 0.50, 0.80と変更されたので、今まで慣れ親しんだ尺度を変えられるのか、混乱が予想される点がデメリットとして挙げられる。もちろん、もしもこの格差が厳格に守られるのであれば、これまで非常に僅差の中でトップ争いをして、僅かな採点ミスでメダルの色が変わるような状況下においては、それなりの質の面での評価がされるのでメリットにもなり得るだろう。

選手の立場から見る新ルール（関口）

新ルールにより、苦手種目をC難度技でまとめ、得意種目でカバーするということが計算できるようになったのがメリットだと思う。ただし、1つでも高い難度を入れるようになると、演技構成全体が長くなり、今まで以上に持久力が必要となった。これによって慢性的な怪我に悩まされる可能性が高くなった点にデメリットを感じる。

コーチの立場から見る新ルール（森泉）

新ルールによって演技構成が革命的に変わることはないだろう。メリットとして考えられるのは、これまでD, E, スーパーE難度の高難度技が演技価値点を得るために重要であったが、C難度しかできない高校生など、それらをうまく組み合わせる点だ。大技も失敗すれば大きなマイナスとなる。そのため、まずは基本的な技を正確に、減点なく実施するというこれまでの国内方針によってトップを狙えると思う。

確かに世界各国が種目ねらいにシフトして、この新ルールによりますます種目別のレベルが高くなると思う。しかし、日本では個人総合強化重視という姿勢をこれまで崩さずに来て、実は全6種目行うことで、苦手種目に前向きに取り組む姿勢が強い精神力を育て、ある意味でバランスのとれた強化が今の日本の強さであると思う。まだ試合をしていないのでメリット・デメリットははっきり言えないが、少なくとも今の日本の現状であれば、今後も好結果を残せる状況にあると思っている。

4. 質疑・意見交換

<意見> 芸術の世界では、個性があってそれぞれが評価されているので、それを点数にするのはおかしいという意見があるので大変ではあるが、新ルールは、トランポリンの方法に似てきた。トランポリンでは「何をやったのか」という部分と「どうやったのか」という部分がはっきりしていて、妥当な序列がつけられている。ある意味、新ルールを歓迎すべきだと思う。

<質問：選手へ> 今、どのようなことを現場で取り組んでいるのか？

<回答：関口> 演技が長くなっているのですが、今

ら技のベースとなる部分の通しこみを行っている。失敗が大きなマイナスになるので、演技を続ける持久力は不可欠なので。また「コバチ？ コールマン(D + F)」という組合せもあるが、「アドラーひねり？コバチ(D + D)」も組合せ加点は+0.2なので失敗しない有効な構成だと思う。こうしたことを考えながら練習している。

<質問：選手・コーチへ> 組合せ加点がなくなって各種目にどのような影響が出ているか？

<回答：関口> 鉄棒は比較的A得点をとりやすいが、ゆかはとりづらい。

<回答：森泉>とにかく跳馬は得点が稼げる種目である。あと、ゆか、つり輪、鉄棒は組合せ加点があるので、工夫した演技構成が鍵となるであろう。

5. まとめ

日本が歩んできた美しさや技の完成度を高めていく方向性は間違いなく多くから評価されると思う。他国は種目別重視によりチームとしての活力を失っているように感じる。現勢力を考えると、日本は層が厚い。したがって、新ルールになっても、トップを狙えるだけの力を維持できるであろう。

6. 現地調査結果

シンポジウム開始前に、新ルールに関する調査を行った結果を参考資料として最後に提示する。

1) 調査回答者(全24名)

・体操競技経験者 = 20名(83.3%), 未経験者 =

4名(16.7%)

・男性 = 21名(87.5%), 女性 = 3名(12.5%)
・年齢平均 = 35.0歳,(最高令 = 68歳, 最年少 = 19歳)

2) 回答結果

問1 体操競技において10点満点廃止に反対ですか？

はい = 11名(45.8%), いいえ = 3名(12.5%),
わからない = 10名(41.7%)

<理由>

* 基準がわかりにくくなったから(7名)

* 採点方式がわかりにくいから(7名)

* 試合をしてみないとわからないか(7名)

* 新ルールは難しいから(3名)

* 新ルールは演技画一の打破になるから(3名)

* 新ルールは怪我につながりそうだから(2名)

* 前よりもましなルールだから(2名)

* 難度指向に走りそうだから(2名)

* 10点満点が好きだから(1名)

* 10点の方が盛り上がるから(1名)

* 審判に負担がかかるから(1名)

* ジュニアからシニアまで同じルールで行えるから(1名)

問2 新ルールについてどの程度、理解されていますか？

理解している = 2名(8.3%)

どちらかといえば理解している = 13名(54.2%)

どちらかといえば理解していない = 6名(25.0%)

理解していない = 3名(12.5%)